

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400129		
法人名	株式会社アガペ		
事業所名	グループホームアソシエ飯倉		
所在地	福岡市早良区飯倉5丁目21-4		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果確定日	平成25年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・20代から60代まで様々な年齢層の職員が働いており、それぞれが創意工夫して利用者のケアを出来ている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kan=true&ji_gyosyoCd=4091400129-00&PrEfCd=40&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成24年12月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>飯倉の住宅街において、小規模多機能と併設する形で「グループホームアソシエ飯倉」は営まれている。福岡市のモデル事業として運営しており、施設の作りには細やかな配慮がなされ、利用者や職員のことがよく考えられた生活のしやすい環境となっている。天気の良い日などはテラスや中庭にて、気軽に日光浴を楽しむことも出来る。自宅にいるような家庭的な雰囲気家族も来やすく、本人本位の生活が送られており、本人の生活リズムを大事にし、入浴や食事も強制せずに、希望するような生活スタイルで過ごされている。併設の小規模多機能と合同でレクリエーションもまめにを行い、地域ボランティアや音楽セラピストも毎月訪問するほか、隔週で和菓子の訪問販売も行い、買物を楽しんでいる。毎日の体操にも力を入れており、リハビリ訓練は個別に行い、月1回、理学療法士の指導も行われている。家族とも良好な関係が作られ、施設長を中心とした職員同士のチームワークとともに、これからも利用者の立場に立ったサービスの提供と充実が期待される事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	就業始めに、アソシエ飯倉の理念を職員全員で唱和しています。今日一日の理念として、職員同士で、共有して実践しています。	法人・事業所の理念を毎日朝礼時に唱和しており、職員も暗唱できるほど慣れ親しんでいる。特に「利用者一人一人の思いを尊重し」という部分に共感し、日頃のケアにも地域とのつながりにも反映させ、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会費を納め、地区行事、公民館活動に積極的に参加し、夏祭り、運動会、バザー等に利用者様と共に参加しています。	利用者には校区の夏祭りなどに積極的に参加して貰い、催し物を楽しんで貰っている。ホームの秋祭りでは、焼き鳥などを作って家族と共に楽しいひと時を過ごして貰い100人を超える来訪があった。地域からも沢山の参加があり、地域との繋がりが広がっている。町内会長も毎月地域の情報を提供してくれ、地域の方がホームの内容や介護について相談に来られる事もある。	今後は地域の方たちも交えた介護の学習会を計画したり、相談窓口を開設して地域の方たちの拠り所として事業所の役割が広がっていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の回りを徘徊されていた、認知症の方を事業所に預かり、交番に連絡しました。自治会に働きかけ、認知症、介護についての相談窓口慣れるよう心懸けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を実施。行事、施設の状況報告。ご家族の悩み、相談を話し合っています。会議の中での問題等は次回の課題にしています。	家族や利用者、町内会長や民生委員、包括支援センター職員が参加され、運営方針等を報告している。家族からも悩み等が出され、認知症についての勉強会に発展する事もある。毎回、地域の方からも色んな意見が出され、活発な意見交換が行われている。	今後は市職員の方にも会議の案内状を届け、地域との関わり等を知って貰う機会を増やすと共に、会議に参加できなかった家族などに定期的な報告がなされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から見学に来られ、事業所の実情や状況を伝えています。事業所のサービスがスムーズにいこう、連絡を密にし、運営推進会議参加の依頼をしながら運営に際し不明な点を相談しています。	市や区からの見学の依頼なども多く、年に何回か訪問を受けている。介護保険や事業に関して分からないことがあればすぐに相談が出来、何かの折にはまめに訪問するように心がけている。主に施設長が窓口となり、良好な関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、スタッフともその都度話し合っています。様の落ち着きがなく、不穏行動をとられるような時はしっかり見守り、傾聴しながら寄り添い一緒に行動します。玄関の施錠はせずに対応しています。	転倒の危険がある方のみ、センサーマットやベッド柵を利用しているが、最低限の利用に留めており、基本は見守りで対応している。毎月のミーティングでも拘束に関して取り上げ、その都度の指導も行っている。言葉による拘束も行わないよう指導、声かけに注意しており、相手の立場にたったケアを心がけ、意識も高まってきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をミーティングで設け、日頃からの状態観察、見守りに努めています。		

自己・外部評価表(GHアソシエイト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちました。該当する方もあるので、しっかり学び、関わる方々と話し合い、活用して行きます。	成年後見の利用につながった方が3人おり、職員には具体的な事例から理解を進め、年に1回は専門家も招いて勉強会を実施している。関係者と協力しながら単身者への対応をしていき、必要時は説明出来るように資料の整備もなされている。	職員の理解度にも差があるので、レベルを上げていくことと、今後は日常生活自立支援事業についても、社会福祉協議会などの連携で制度の熟知が図られることに期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は重要事項説明書、契約書を十分理解した上で、説明しています。不明な点がないかの確認も行っています。解約、改定時にも書面で分かりやすく説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で利用者や家族が包括や自治会長、民生委員等、外部者に意見、要望を表せる機会があり、運営に反映させています。内容は記録に残し、スタッフがいつでも閲覧できるようにしています。	運営推進会議に意見を反映させており、面会時に報告をしている。訪問が少ない方には電話で意見を聞き取っているが、家族も協力的でまめに来られている。要望などは連絡ノートを使って共有し、対応を丁寧に説明し、納得してもらっている。意見箱の設置もされているが、口頭で聞き取ることが多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は申し送りノートや対応変更ノートの書面に記録しています。スタッフの確認も行い、職員間の連携を円滑にできるように努めています。	月1回のミーティング時に皆が自分の意見を自由に出し合っており、管理者もよく意見を聞いてくれている。利用者の対応の仕方等も皆で話し合っており、申し送りノートに意見や要望等を記載すると管理者からアドバイスが返ってくる。困った時は管理者やリーダーに相談して解決策を見出している。	会議での意見は活発に出されているが、今後は個人からの意見も聞き取れるように、半年か年に1回程度、本部などとも協力して個人面談など、個別の相談体制の充実がなされることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のレベルアップを図る為に、外部から講師を招き、介護技術の指導をしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在の職員の年齢状況は20歳代から60歳代まで、幅広く、職員皆、一人一人が、その能力を発揮できるように配慮しています。新人職員には新人職員研修で人権教育、接遇の研修を行っています。	20代～60代までの男女が、各人の能力を生かして働いている。有給を入れれば3連休も可能であり、休憩時間も1時間保障されている。職員が希望する研修会などには勤務時間中に参加できるなど配慮が行き届いており、技術知識の向上に対する意識も高い。働きやすい環境づくりが進められている。	職員の研修会が活発に実施されているので、今後は年間の研修計画の導入など、計画立てていき、技術の向上機会などを与えて更なる前進に期待したい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティング、勉強会で、接遇、人権教育について、研修をおこなっています。	開設時の研修や、入社時の新人研修などによって人権の尊重に関して学んでいる。法人全体でも共同して外部講師を招いた全体研修をおこなっており、学習の機会が多い。外部研修にも参加しており、その際は伝達講習や資料の回覧で共有している。	

自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修、アソシエグループ全体で介護研修、管理者研修、外部研修に積極的に参加できるようシフトを管理しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域ケアマネ会の出席、ネットワークづくり、勉強会出席し、サービスの質を向上させています。新人研修に介護実技講座6カ月コースを導入しました。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居時に、入居者様との交流を図り困っていること、不安を傾聴しています。契約・アセスメント・担当者会議等を通してご本人様の要望にお応えできるようにしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、家族の不安なことなどをお聞きし、また、要望にも耳を傾けご家族と共に問題解決していくよう心がけております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の要望、ご家族の要望を把握し、必要なサービスを提供できるよう努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に過ごす時間を多く設け、会話等 昔の思い出話を傾聴しています。会話することにより少しでも精神的な安定、安心感が得られるよう配慮しております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者の絆が深まりますよう誕生会はその日に行い、ご家族と一緒に事業所内で楽しむ機会を設けています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を通じて 近くの馴染みの場所や、福祉ボランティアの人たちとの交流を持ち地域の活動も参加できるように支援しています。	入居時に家族環境などを聞き取り、訪問や電話などによって打合せも行っている。本人のこだわりを大事にし、行き慣れた美容室や、化粧品を買いに行ったりと送迎の支援も行っている。外泊支援や友人との外出や墓参りなど、入居前の関係をそのままに家族なども協力して働きかけている。	

自己・外部評価表(GHアソシエーション)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、出身、生活歴など幅広く考慮し、個人個人がコミュニケーションがとれるように、時にはスタッフが間に入って、取り持ち、支え合えるような支援につとめています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまでの関係性を大切に、本人様が動揺されないよう、必要に応じていつでも相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりや、スタッフとの会話等から思いを尊重し、何度も話し合う機会を作ります。そして暮らし方の希望に努め把握できた事に関しては記録に記載することで、スタッフ間の情報共有に努めています。	不穏な方や、疎通の難しい方でも声かけのタイミングや表情を読み取って、本人本位のケアになるよう相手に寄り添って笑顔になるように働きかけている。職員同士のコミュニケーションもまめにとり、申し送り以外でも相談をその都度行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方を本人様にお聞きしたり、ご家族に聞き、支援経過の把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録を綴り、持つてる能力の把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様に面談しアセスメントを行い、よりよく暮らすためケアプラン作成を行い実行することで、利用者さまの暮らしを支えています。月1回のミーティングの中で、スタッフ間にて情報把握に努めています。	モニタリングは2ヶ月、プランの見直しは3ヶ月毎に行っており、変化のある時は毎月のカンファレンスでも見直している。担当者を決めており、家族からの意見等は面会時に聞き取り担当者会議で反映させている。月に1回はPTや管理栄養士とも意見交換して日々のケアに反映させている。センター方式を検討中である。	担当制の職員を更に機能させていき、責任をもった管理を行う事や、センター方式の運用を取り入れて利用者へのアプローチを改善していくなど、今後の取り組みの向上に期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は記入し、職員間で情報を共有できるよう、申し送りノート、対応変更ノートを準備し、記録をしっかり執るようにしています。ミーティング時に各入居者様の目標達成度や今後の課題を話し合っています。		

自己・外部評価表(GHアソシエーション)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	午前、午後に限らず、落ち着かれない行動、帰宅願望の強い入居者様に対し、個別対応し気分転換を図って、外部にお連れしたり、一緒に作業を手伝って頂き、居場所を作っておけるようにしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内で解決できない事等は入居者様在住の包括と連携を持ち、連絡、相談しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設の連携病院にて往診されている入居者様のほかに、本人、ご家族希望にて入所前からのかかりつけ医に受診されている方もいます。	希望するかかりつけ医を利用することが出来る。通院は原則家族の介助だが、必要があれば同行して情報を共有している。提携医は2週に1回往診があり、薬剤師も同様に訪問している。家族と事業所で協力して医療に関する要望を伝えており、よく連携が取られている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師にいつでも医療についての助言をもらえるような連携システムを取っております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様のキーパーソン、家族に情報を共有し、連絡をとりながら、退院にむけて病院関係者との関係づくりを行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の重度化、今までに見られなかった行動、出来ていた事が出来なくなった時、ご家族と話し合い事業所でできることを説明し共有し支援に取り組んでいます。	家族には、入居時に救急時の対応等を口頭で説明している。最近、急変されて看取りを行った事例があり、適切な対応はできたと思っている。看取りについては、希望があれば受け入れていきたいと思っているが、職員とも合意形成がとれるよう話し合いを行って勉強会などにも取り組んでいきたい。	ターミナルケアについての職員研修会の実施や、家族とも方針の同意書を取り交わすなど今後の受け入れがスムーズに進むよう更なる取り組みに期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、連絡網を用意し主治医に繋ぎ、定期的に対応の訓練に取り組んでいます。		

自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、特に火災、地震に関して定期的に避難訓練を行っています。消火器の使い方、避難経路について日々、訓練を行っています。	年に2回消防署の立ち合いのもと、夜間想定も含めて避難訓練を実施している。防災マニュアルも掲示し、消火器の使い方や避難経路等についても常に職員に周知徹底するように心がけている。地域には呼びかけているが、今までに参加されたことはない。	地域との連携を更に強め避難訓練に参加を呼び掛けるとともに、緊急時の非常通報のあり方などについても検討され更なる安心・安全に取り組みされることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の呼び名をお名前丁寧にお呼びし、言葉使いに気をつけ尊厳重視を心がけています。	利用者や家族の立場に立つよう、呼びかけには留意しており、職員同士の仲の良さが慣れにつながらないようにメリハリをつけたサービスを指導している。必要時は同性介助によって羞恥心にも配慮し、個人情報に関してもは日頃から守秘義務を意識したケアを心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来ない、思いを言えない寡黙でおとなしい入居者様に対しては、入居者様が言えるような雰囲気づくりを心掛け、利用者の背景を思い、関心の有ることを話題にします。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまで、入居者様本位なので、入居者様のペースを尊重して、希望にそって支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように、着こなしを褒め、全体の調和を褒める。入浴後のヘアスタイルをセットしています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事は楽しみなものなので、安全に、安心して食べて頂くよう、入居者様に合わせて工夫しています。また、片づけは毎日一緒に行っています。	本部の管理栄養士が食材とメニューの管理をしており、調理は職員が行っている。品数も多く、バリエーションに富んだ食事が提供されている。出来る事はしてもらい、家族も一緒に手伝いに来ることもある。嗜好を聞き取り個別の対応も行い、おやつには好きな物を作っている。職員も検食で一緒にテーブルに着き、和やかに食事されていた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事の量、主食、副食の量を記入し、今日の体調はどうか結び付けます。		

自己・外部評価表(GHアソシエイト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きできる方は出来るだけ一人の力で実施して頂き、職員は出来ない部分のみお手伝いをしています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン、習慣を把握し、起床時、食事前、入浴前、就寝前のトイレの声掛け、誘導を行い、習慣としています。	排泄表を事務所に掲示して確認すると共に、職員同士で確認し合っ、重複の声掛けにならないよう工夫している。失敗時も、さりげなく声掛けて誘導している。リハパンツからパットになったり、リハビリで歩行ができるようになって自立して排泄ができるようになった方もあり、家族にも喜ばれている。	漏れや失敗が増えた方へ、リハビリのアプローチから支援していくことや、自立支援に向けた勉強会などにも積極的に取り組まれることに今後期待したい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通の回数を記録し、便秘をしているかどうか分かるようになっていました。水分補給や調理法に工夫しています。また、ご家族と相談し、便通が良かったときに摂取していた食べ物などもお出ししています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決まっていますが、女性職員と入浴したいという利用者の希望や、午前、午後などの希望を聞き、個々にそった支援をしています。	フロアによって機械浴と普通浴に分けられているがどちらの利用も出来る。浴室暖房が備えられ冬でも快適に入浴出来る週2日の対応だが、希望があれば別の曜日でも入浴しており、時間も要望を聞いて対応している。お湯は貯め流すか張り替えて清潔を保っている。拒否のある方には順番や曜日を変えるなどして対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子観察し、体調変化、体調不安が見られる入居者様には居室に誘導 ゆっくりと休んでいただきます。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書のコピーを頂き、薬の効果、副作用も良く理解ができるよう個人ファイルの中に保存し確認できるようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書き物の好きな入居者様に、毎日食事のメニューを記入して頂くなど、一人一人の力を活かした支援を行っている。		

自己・外部評価表(GHアソシエイト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前計画を立てている外出以外にも、天気がよくて入居者が「出かけた。」と言われたときに、外出することがあります。	その日の状況も見て、積極的に外出するようにしている。週一程度ドライブにも出かけ、油山や紅葉を見に行ったり、日用品の買物にも連れ立っている。車いすや外出意欲のない方にも働きかけており、中庭にはいつでも出ることが出来る。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族や本人の希望により施設で預かっている入居者様と、少額ですがお金を所持している入居者様もいます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話できる方は電話を掛けて貰い、手紙が書ける方には葉書や、便箋の用意をしています。ご自分で携帯電話を所持している利用者もいます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温の変化に合わせてエアコンの調整、加湿器、扇風機、床暖房の利用を工夫しています。	新しい施設で、広く開放的な空間と、掲示物なども控えめで整理されており、清潔感がある。南北に面した窓からリビングには温かな日差しが差し込み中庭の緑を望むことが出来る。トイレの数も多く設置され使いやすい配慮がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をされる時、気の合った人同士、お話しが進むように、配慮して席の移動を心掛けています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を希望されている入居者様の要望には、しっかりお応えしております。	広めの居室には木調の介護ベッドとタンス、収納棚が備え付けられてある。窓も障子で仕切れ和風の造りで安心感がある。それぞれが写真や仏壇花などを飾り、家庭的で柔らかな雰囲気を作っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで段差なく、車椅子で自由に動けます。手摺りが玄関からリビング、居室、廊下、トイレ、浴室に付いています。ベッドも電動で高さ、傾度も身体に合わせてられます。		